

# 都市再生整備計画 事後評価シート(原案)

## 東田地区

令和8年1月

福岡県北九州市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県		市町村名	北九州市		地区名	東田地区		面積		137ha		
交付期間	令和3年度～令和7年度		事後評価実施時期	令和7年度		交付対象事業費	483.1百万円		国費率	0.5			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名										
			【公園】	・東田大通り公園整備事業									
			【地域生活基盤施設】	・ミュージアムパーク創造事業関連サイン整備事業									
			【高質空間形成施設】	・スペースワールド駅高架下魅力向上事業 ・スペースワールド駅前広場魅力向上事業 ・新科学館周辺景観整備事業									
	提案事業	【事業活用調査】	・事業効果分析業務										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名				削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			【高質空間形成施設】	・スペースワールド駅高架下魅力向上事業			高架下空間のライトアップの設置箇所、設置方法や時期について関係者と協議を行った結果削除するもの。			ライトアップ設置には至らなかったが、駅高架下駐輪場の移転や駅周辺施設の広告、路面表示より高架下を含めた空間の高質化が進んでいるため、影響はないと考える。			
			【高質空間形成施設】	・スペースワールド駅周辺EV・ES改修事業 ・いのちのたび博物館周辺公共空間再編事業			高齢者および障がい者等の安全・円滑な移動を促進するため。都市再生推進法人の設立準備に伴い、官民連携のまちづくりの機運が高まっていることから、公共空間におけるウォーカブルな空間の形成を図るもの。			指標3の歩行者通行量を12,400→13,000に見直し			
	提案事業	【まちづくり活動推進事業】	・賑わい空間創出実証実験			東田大通り公園の整備後の活用をイメージするため、公共空間を活用した社会実験を行うもの。			-				
	交付期間の変更	当初	令和3年度～令和7年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
変更		-											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
	指標1	東田地区における観光客数	人／年	708,000	R1	2,000,000	R7	モニタリング	評価値	△	あり なし	観光客数は目標未達成。しかし、基幹事業や関連事業の実施により近年は増加傾向が続き、一定の効果発現が確認された。	令和8年10月以降
	指標2	東田地区の来訪者の平均滞在時間	h／人	1.2	R1	1.6	R7		1.1	△	あり なし	平均滞在時間は商業施設の影響で整備効果が見えにくい。駅前広場では増加し、局所的な効果発現が認められている。	令和8年10月以降
	指標3	東田地区の主要地点における歩行者通行量	人／日	11,356	R2	13,000	R7		14,242	○	あり なし	各事業の整備により回遊性・滞在性が向上した結果、歩行者通行量は目標を達成した。東田大通り公園と駅前広場を核とした空間にサイン整備が加わり、整備効果が発現している。	-
	その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況	その他の数値指標1	スペースワールド駅一日あたりの平均乗車人員	人	1,696	R2			3,143 (R6)			スペースワールド閉園後は減少傾向であったが、R4集客施設開業に伴い増加に転じ、近年は以前の水準に戻っている。	
その他の数値指標2													
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況	・整備計画に基づく、東田地区周辺整備を契機として、行政と地域（企業・大学・団体など）の協働による取組が進められてきている。 ・本地区のゲート空間や回遊性向上の中核を担う「東田大通り公園」では、地域共創のワークショップのほか、公共空間活用に向けた社会実験、地域団体連携によるイベントを開催。また、公園整備後には多様な主体が参加した活動に繋がっている。												
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング		-				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-		
	官民連携による取組		本市では「2050まちづくりビジョン」のほか、「八幡東田まちづくり連絡協議会」が中心となり、「八幡東田未来共創ビジョン」を策定し、都市再生推進法人やエリアプラットフォームが中心となってワークショップや社会実験を実施。また、「東田Super City構想」を基礎とした「東田・未来都市プロジェクト」により先端技術の実証・自走事業を実施。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後も官民一体となり、「八幡東田未来共創ビジョン」の実現に向けた取り組みを推進し、PDCAに基づく検証・改善を継続する。		
	持続的なまちづくり体制の構築		・八幡東田まちづくり連絡協議会は、平成12年から東田地区のエリアプラットフォームとして活動しており、令和5年には特別部会「八幡東田未来共創会議」を設立し、取り組みを強化している。 ・令和5年に、八幡東田まちづくり連絡協議会からなる、（一社）東田エリアマネジメントを設立、都市再生推進法人の指定を受けた。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				【八幡東田まちづくり連絡協議会】 まちづくり活動の中心的な役割であり、今後も産官学民のエリアプラットフォームとして活動を継続する。 【（一社）八幡東田エリアマネジメント】 「八幡東田未来共創ビジョン」を実現するための取組を行う。		

様式2-2 地区の概要

東田地区(福岡県北九州市) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標:集客拠点にふさわしく、来訪者に魅力的な都市環境の形成 目標1:観光施設、教育・文化施設、大規模商業施設などが集積する集客拠点の中核に相応しいゲート空間の形成 目標2:施設を歩いてめぐりたくなる公共空間の形成		東田地区における観光客数	単位:人/年	708,000	R1	2,000,000	R7	115,100	R6
		東田地区の来訪者の平均滞在時間	単位:h/年	1.2	R1	1.6	R7	1.1	R6
		東田地区の主要地点における歩行者通行量	単位:人/日	11,356	R2	13,000	R7	14,242	R7
■スペースワールド駅周辺EV・ES改修事業									
■スペースワールド駅前広場魅力向上事業									
■いのちのたび博物館周辺公共空間再編事業									
■新科学館周辺景観整備事業									
■東田大通公園整備事業									
まちの課題の変化		【集客拠点のポテンシャル向上について】 引き続き、市内外から人を呼び込む各施設及び地区全体の魅力向上に加え、東田地区のまちづくりに関わる人を増やす。 【駅前広場のゲート空間機能強化について】 都市再生推進法人(一社)八幡東田エリアマネジメントを中心とした地域が主体となり、整備した駅前広場の魅力向上や賑わい創出に向けたイベントの開催など継続して行う。 【東田地区全体の回遊性向上について】 各施設の開業や公共空間整備による効果が現れつつあるが、施設間の回遊性を高めるための連携した取り組み(仕掛けづくり)が望まれる。							
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)		①滞在時間が増加するような空間の創出 ・東田大通り公園に子どもが楽しく遊ぶことができる遊具の設置 ・多様なアクティビティを誘発する広場の整備 ・憩い、賑わう滞在空間の創出、多様な過ごし方ができる空間の整備 ②魅力あるゲート空間の形成 ・文化施設等を訪れるファミリーなど来訪者をワクワクさせる空間の創出 ・駅前ゲート空間とまちの繋がりが強化 ③居心地がよく歩きたくなる公共空間づくり ・東田大通り公園の魅力向上 ・エリア全体の回遊性向上 ・地区内の回遊を促す歩行者中心の公共空間整備							